

まじめプチシンポジウム(第1章)

彼らは何を語ったのか—実録—

第34回 こうべ福祉・健康フェア
2023



「活躍できる自分探し！」

～最先端事業所からの報告～

I 部

1. プチギャラリートーク

しあわせの村 障がい者アート支援の取組み

「no art no life って知ってる？」・・・ P1

II 部

2. プチシンポジウム

「活躍できる自分さがし！

～最先端事業所からの報告」・・・ P3

「輝ける自分探し」

「儲かってますかあ」・・・ P16

CAST ・・・ P27

3. 新たな取組み **森の1DAY CAFÉ** ・・・ P31

4. あとがきそしてふり返り ・・・ P33

第34回 こうべ福祉・健康フェア

まじめプチシンポジウム(第1章)

「活躍できる自分探し！」

～最先端事業所からの報告～

【日 時】 2023年10月1日（日）午後2時～3時

【場 所】 しあわせの村 体育館（特設会場）

【ゲスト】

社会福祉法人 みかり会 Link tree （飲食店）
ソーシャルワーカー 山下 美春さん

株式会社 インコントラ INNOCENTURE（ネイバーズ六甲）
（クラフトチョコレート）

事業マネージャー 太田 純貴さん

株式会社 TAKASHIMA アトリエRin（着物リサイクル）
代表取締役 高嶋 孝仁さん

【司会】 神戸市社会福祉協議会 課長 長谷部 治さん

たちばな障害者相談支援センター 森田 裕一さん



♥ プチギャラリートーク

午後1時45分～2時

しあわせの村

障がい者アート支援の取組みを紹介

しあわせの村 学芸員 加藤美知子

1. プチギャラリートーク

「no art no lifeって知ってる？」

司会（森田） 長谷部さん、ノーアート・ノーライフって知っていますか？

司会（長谷部） 何よそれ。

森田 NHKの番組で、障がい者アートの世界を紹介するやつ。

長谷部 面白いの？

森田 絵や工作の制作風景とか、お母さんにインタビューしたり、よう出来てるんです。

長谷部 いつも見てるんだ。

森田 いや、それが見たことないんですわ。

長谷部 何、それ。

森田 台本に書いてあるんです。（客席に台本を見せる）

長谷部 それはそうと、これから何が始まるの？

森田 「まじめプチシンポジウム」の前に、プチギャラリートークですわ。

ここしあわせの村が障がい者アートの支援しますって話。・・・では、ご紹介いたします。しあわせの村学芸員の加藤さんです。

加藤 みなさんこんにちは、今日はシンポジウムの始まる前に、こちらに飾られているような障がい者アートについて少しお話させていただきます。

先ほどお話に出た「ノーアート・ノーライフ」は、日曜の朝にNHKで放映している障がい者アートを紹介する番組ですね。とても楽しい番組ですので、ご覧になってみるといいと思います。しあわせの村では、障がいのある方たちの創



加藤

作活動を支援し、自らを表現する機会を提供しようということで、毎年「こころのアート展」という公募展を開催しています。また、アート展の期間中にミュージシャンの方々による作品にインスピレーションを受けて作曲された楽曲のミニライブを開催しています。（会場のセンターに展示されている作品を示しながら）今回の福祉フェアのチラシなどに使われているこちらの作品について、お話しします。この作者、お幾つだと思われますか？（20代、30代、40代・・・観客に挙手を求める）実は、70代の方なんです。佐用町の施設で暮らしておられるんですが、読んだ絵本とかからモチーフが生まれて、とてもメルヘンチックで素敵な絵を描かれます。この絵のタイトルは「母と子」です。寄り添う母子の温かくて優しい絵ですね。先ほどお話ししました、ミニライブのミュージシャンの方々も三人の方がこの絵を選ばれました。人を惹きつけるものがあるんだと思います。余談ですが、この作者のおじいちゃんと言っていいと思いますけれど、女性が大好きで施設の職員にラブレターを書いて渡すんです。色んな人に、何度も書いて・・・優しい方ですね。でも、施設の女性職員は、誰も喜んではいなくて手紙は机の中に放り込まれているようです。

とにかく、彼にとって絵を描くことが、何より好きで明るい色調の絵を沢山描き続けておられます。作品を生み出す創作活動に、障がいのあるなしは決して関係ないですね。人のこころを打つ作品にその区別はないと思います。アートの世界で障がい者が活躍し、社会とつながり、共に生きる社会が広がることを願っています。まさに、このシンポジウムのテーマ「活躍できる自分」がアートの世界にも大いにあると思います。

しあわせの村では、本館・宿泊館2Fで「こころのアートギャラリー」で定期的に色んな作品をご紹介します。是非、ご覧いただければと思います。本日は、貴重な時間をいただき、どうもありがとうございました。（拍手）

2. 「活躍できる自分探し！」

～最先端事業所からの報告～

プチシンポジウム(第1章)



新緑福社会 アトリエRin INNOCENTURE Link tree
森田さん 高嶋さん 太田さん 山下さん

司会 (森田) それでは、プチシンポジウムを始める前に、みなさんにお尋ねします。堅苦しくてつまらない感じがいいですか。それともざっくばらんで、面白くて役に立つ感じ、どっちがいいですか。ざっくばらんがいいですよ。じゃあ、その線でいきますね。

司会 (長谷部) ところで、誰なのあなた。

森田 そうですね。今日初めて会ったんですからね。新緑福社会の森田です。ここしあわせの村にある「グリーンホーム平成」で指導員してたので、長いことしあわせの村に通ってました。ところで、おタクは？

長谷部 私は神戸市社会福祉協議会で働いております長谷部といいます。

森田 ちょっと聞いたんですけど、阪神・淡路大震災の時に、学生ボランティアで神戸に来て、そのまま神戸離れられなくなって、社会福祉協議会で働くことになったらしいですね。

長谷部 そうなんです、長田区役所の近くの公園で、二ヶ月住んでました。自分でもびっくり。

森田 災害対応では、この業界、第一人者だそうですね。いつかプロフェッショナル仕事の流儀に出てくださいね。

長谷部 ありがとう。

森田 まあ、僕は「情熱大陸」派ですけどね。

僕たちの話は、これくらいにして、前ふりでパネリストのみなさんの緊張がほぐれたかなってところで、まじめプチシンポジウム「活躍できる自分探し!最先端事業所からの報告」を始めたいと思います。

森田 今日は会場の皆さんも一緒に、障がい者の就労支援の未来を考えるきっかけにしていいただければと、思います。

長谷部 それでは、パネリストのみなさんをご紹介するところですが、一言ずついただきますでしょうかね。

山下 みなさんこんにちは、私、社会福祉法人みかり会の、山下と申します。どうぞよろしくお願い致します。

太田 こんにちは。株式会社インコントラの太田と申します。弊社はB型の就労支援を行っております。よろしくお願い致します。

高嶋 こんにちは。就労継続支援B型を中央区の方でやらしていただいています株式会社TAKASHIMA、アトリエRinの高嶋と申します。よろしくお願い致します。

長谷部 今日のお題は、最先端事業所からの報告ということなのですが、まず、それぞれの事業所さんが、どんなところなのか、お聞かせいただきます。

山下 社会福祉法人みかり会でソーシャルワーカーをしております。まず、法人の概要を少しお話させていただきたいと思います。みかり会は1952年に創業しまして、南あわじ市に本部がございます。三つの分野、教育・保育、介護、障害の各分野で、色々と事業を運営しております。数十年前から、みかり会の事業理念に共生社会の創造を掲げて、幼・老・障の共生ということで、高齢者のデイサービスを併設したこども園の運営をしたり、ごちゃまぜで支援をしています。同じ施設で過ごすことによって、色々な感覚であったり、人としての成長していけるような支援ができればというふうに思っております。この度ご縁がありまして、3月の末にLink treeを開所させていただくことになりました。もともとヴィッセルバーがあったところなのですが、市民の方の障がい者への理解促進につながるような事業を神戸市が公募されておりまして、みかり会が手を挙げて採択していただいた経緯がございます。こちらは、CAFÉとともに神戸市内の障がいの事業所の製品を販売する神戸ふれあい工房という歴史のあるものを併設しています。このLink treeという名前を付けた思いは、Link、輪とtree、木の根っこのように、街の中でみんながつながる場所になればなという願いを込めています。障がいのある方が、こういった立地の中で、街へ出て、色々なお客さまや神戸ふれあい工房の事業所の方々ともつながれるような温かい空間で、お仕事をさせていただける機会になればいいなと思っています。Link treeの特徴は、朝8時から夜8時まで営業をしておりまして、12時間という長い時間で運営をしているというの



も特徴かなと思います。それぞれの障がい特性に合わせて、「朝は苦手だけどお昼からまた夕方からはお仕事しやすいな。」というように時間帯を選んでいただけるように設定をしています。

今、学生がお二人アルバイトに来てくれています。障がいの方々や支援員と一緒に過ごすその中で、福祉教育を発信する場になればなと思っております。また、店内に神戸市社協さん主催のHUGプラス展で最優秀賞を取られた作品をお借りして展示しています。さらに、みかり会のこども園や放課後等デイサービスの利用者が描かれた作品もアートとして展示していますので、さりげなくアートに触れ合える店内となっております。実際に、Link treeに来ていただくと、今お話していることが分かると思いますし、アルコール類も提供していますので、是非一度、Link treeに来ていただけたらと思います。よろしくお祈いします。

(拍手)

森田 はい、ありがとうございます。

長谷部 Link tree、色々深掘りしたいところもありますが、まずはひと通りお伺いした方がいいかなと思いますので、続きまして、太田さんお願いします。(拍手)

太田 よろしくお祈いします。弊社は、A型B型就労支援をやっているんですけども、今日はネイバーズ六甲というB型の事業所で参加させていただいております。みなさん、ビーンツトゥバーチョコレートって聞かれたことありますか？

(会場手が挙がる) あっ、数名の方いらっしゃいますね。ビーン、豆からバー、板なんですけれど、カカオ豆から板チョコになるまで、同じところで製造して販売するっていうジャンルのチョコレートなんですけれども、それと福祉を掛け合わせて、障がいのある方にまず、カカオ豆を手作業でまず剥くところから始めまして、勿論仕分けしていただいたり、さらにその豆を細かくしていただいたり、そこからどんどんチョコレートにしていく、調理をしていく、パッケージの箱の梱包作業であったり、商品になるまでしっかり仕上げさせていただいて、で、隣のブティックで販売しているという一つのステップで、お店を一緒にやっております。他にも先ほど障がい者アートのお話もありましたが、パッケージにコラボしたアートを使った商品を置いたりして



INNOCENTURE



夏場ってチョコレートが結構売れない時期なんですけど、そういう時期に若手アーティストやうちの利用者さんも今度個展をやったりとか、ギャラリーとしても開放しておりますので、阪急六甲ちょっと上ったところにお店と施設がありますので、気軽にお立ち寄りいただければと思います。ありがとうございました。（拍手）

長谷部 夏場売れない？温度管理の話とか、お菓子作りのこととか深掘りしたいですが、ちょっと先、進めましょか。では、高嶋さんお待たせしました。

高嶋 はじめまして、株式会社TAKASHIMAアトリエRinの高嶋と申します。中央区の貿易センター駅のところでですね、B型事業所の方らせていただいています。私ども法人としては、初めての福祉支援の参入となりました。それまでは、ずっと小売業をやってきたんですけど、（展示されたマネキンを示し）見ての通り着物を使ったりメイク商品を作らせていただいています。使わなくなった着物を利用者さんと一緒にほどこいて手洗いして、アイロンかけて、反物に戻すっていう作業をメインとしてやらせていただいています。それを材料販売として販売したり、後はまだ、こういったお洋服まではなかなかいけてないんですけど、生活雑貨の方に作り直させていただいて、販売しております。事業所の方もオープンして、1年10カ月ほどのまだ出来たての事業所なんですけれども、ご利用者さんも思ったより集まってくれてはって、やっと今、生活雑貨、来年からはお洋服の方までやっていけるか

なという所まで、やっと来れた段階ですね。今日は初めて出店させていただいて、真ん中の方で売ってますんで、是非どんな物を作っているか見に来ていただけたらと思っております。中央区の方でなかなかB型事業所として着物一本でやってる事業所としては、ありそうでないようなことを始めさせていただいた時に、初めはちょっと上手に出来るかなっていう不安はあったんですけど、作業それ自体がすごいご利用者さんに合ったのか、気に入ってもらったのかっていうところで、僕たちのやってる作業は、どちらかと言えば作るというよりは、ばらばらにして壊すっていう作業を中心にして、やらせていただいている中で、みなさんに気に入ってもらえて、ものすごく集中して取り組んでいただけて、お陰さまで2年弱やらせていただいた中で、ほとんどの利用者さんには、辞めずに続けてもらっているところをありがとうございます。それで、事業所としてもうひとつやってることと致しまして、ほどく作業を慣れていただいた方に関しては、ミシン講座というものを入れさせていただいて、ミシンの技術の習得の方を半年かけて職員がマンツーマンで付きながら、やっていただいて、そこから手に技術をもって就職して、事業所の方、卒業していただくっていうことを目標としてやらせていただいています。お陰さまで去年一年間で、4名の方が、就職の方まで結びつきまして、今年の今の段階で3名の方が卒業された形で事業所としては、ステップアップの材料の一つにしていただけてるなと思っています。今後もね、商品づくりの方は僕たちだけが、アイデア出してるんじゃないくて、利用者さんと一緒に商品アイデアを形にして、どんどんそれを



販売して、売り上げを作っていて、ご利用者さんに工賃として還元していたらなと思っております。また、三宮の近くにありますので、是非気軽に見に来てください。よろしくお願いします。（拍手）

森田 はい、みなさんありがとうございました。完璧にご紹介いただいたと思うんですが、僕は司会を依頼されてからシンポジウムの進め方に不安があって、
.....長谷部さんどうでした？

長谷部 僕は、頼まれたのが四日前なので、森田さんとも今日はじめまして、でしたし、ちょっと付け焼刃感があって、申し訳ないんですけど.....でも、深掘りしてみたい話が一杯ありますので、どうぞよろしくお願いします。

森田 私も司会進行を頼まれましたので、一度はそれぞれの事業所さんの方、見に行かせていただいて、Link tree さんではお酒をちょっと飲んだりしてきました。

長谷部 「マジメか、えらいな」と言えと、ここ（脚本）に書いてあるんですけど.....



アトリエRin

森田 いや今日は、うちの理事長も聞きに来られると聞いていましたので、ちゃんとしとかなあかんかなあと思い、下調べの方も行ってきております。

長谷部 頑張ったね。.....では、次にいくつか質問をしていきたいと思います。私が阪神・淡路（震災）の時、30年弱前初めて神戸に来て、当時まだ作業所といった時代のこの業界の方たちと色々関わるようになった

ところからいくと、やっぱり作業とか下請けみたいな仕事一杯多かった中で、今日のお三方とは大分違いますよね。その辺りのことをまず、お伺いしたいというのが、まず一番最初にありました。利用者さんに対して、工賃とか色んな形でお金を還元していく中で、昔で言う下請け、.....神戸は私も生まれてない頃に、最初の作業所が始まって、.....最初の作業所って何してたか知ってはります？神戸で.....

森田 内職とかですかね.....

長谷部 いや、内職なんですよ.....第一次ボウリングブームの時の、あのボウリングのピンを磨く仕事なんです。

森田 ほおあーっ。

長谷部 もう、それを当事者のみなさんがシンナー、有機溶剤ですね、ピカピカに磨くっていう.....そのボウリング場で、まだ機械で並べれない時代で、すごく汚れる訳ですよ、暫くすると、それを磨くっていう仕事を下請けでやっていたっていう.....



森田 ボウリング場確かに沢山ありましたもんね、昔ね、確かに。

長谷部 そういう仕事が沢山あったんやと思いますけど、非常に辛い仕事で、当時の市議会の記録に、換気扇もないようなところで、あんなシンナー扱わせて大丈夫なんかみたいなことが、議員さんから質問が出たような記録も残ってたりするんですけど、その頃から半世紀くらい経ってますから大分違いますけど、利用者さんの仕事に対する姿勢というのか、仕事をどう捉えているのか、

言ってみたら、ここでこの作業通して、ボウリングのピンと向き合っているのが自分の毎日の役割っていうのと、何かちょっと違うように思ったんですね。その辺りあの利用者さんたちが何に向き合ってるのかな、ということを少し教えていただけたらなと、という風に思っております。・・・こんな質問でもいいですか？

森田 いいです！

長谷部 これ段取りないんで・・・（会場、笑い）

森田 はい、突然振られても、分かる範囲というか、その思いを伝えていただけたらと思います。

輝ける自分探し

山下 あまり難しいことは、私もお答え出来ないんですけど、利用者さんが輝ける、自分のもっている得意なことであったり、得意分野を存分に発揮して、輝けることが事業所として何よりも大事かなと思っています。利用者さんの中では、絵の得意な方や、接客の声掛けが上手い方もいらっしゃるの、それぞれの長所を活かしていただけるようなお仕事を見つけていけたら良いかなと思っています。そして違うお仕事でも「やってみる？」という声掛けをさせていただいて、1回チャレンジで別のお仕事をやってみると、意外とそちらのお仕事の方が面白いっておっしゃることもあります。そういった後押しをさせていただくことが大事かなという風に思いますね。そして、Link treeに来ることがその人の居場所になり、ここに来れば活躍出来るという役割を感じていただけるような支援が出来れば良いかなと思います。

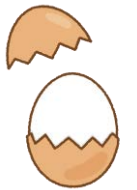
長谷部 今どき、アルバイトを募集しても、なかなかいない中で、当事者の方が実際に

接客をやられていて、選びづらい仕事でも、やってみると楽しい、みたいなことあったりするんですかね。その人が輝ける、みたいな。

山下 今のお話は実際に、Link treeに来られている利用者さんのお話でして、意外と違うことが楽しいっていうお話でいうと、普段洗い場を中心に担当して下さっているある利用者さんが、野菜を切るとかゆで卵の殻を剥くっていうお仕事をちょっとやってみますか？って言ったら、「やってみる」とおっしゃられていうことで、一緒にやってみると、丁寧に野菜を切られるし、殻剥きも慣れた手つきでされるんですね。実はその方は別の事業所に通われている時に、食材を扱うお仕事もされていたのです。そして、一日の振返りの時、今日一番楽しかったことは？と聞いたら、「ゆで卵の殻剥き」っておっしゃるんです。毎日それを繰り返していくと、その方の中で流れが出来てきて、その時間になるとそろそろかなっていうソワソワ感が伝わって来るんですね。自分の出番かなって、こちらが声をかける前に手袋をつけ代えて、準備をして、楽しみにされているような姿を目にすることがあるんです。



で、接客の方は、CAFÉでお仕事することに憧れている方で利用していただいているんですけど、すごく丁寧な「いらっしゃいませ」からお客さまを迎えてくださるんですね。常連のお客さまとは、もう支援員がいなくても、コミュニケーションを取られていて、何気ないお客さまとの繋がりを通じて、その方が表舞台で活躍しているということを感じていただける機会になっているんじゃないかなと思っています。



長谷部 ありがとうございます。もうちょっと聞きたいところですが、順番に・・・太田さん、チョコレート・・・お菓子作りは、科学的な温度管理とか難しいところもあると思うんですが、むしろそういうのと向き合うことが好きだったりするような人がいたりするんですか？正確に計るようなこだわりがあったりとか・・・

太田 そうですね。個人差があって、出来る出来ない、好き嫌いもあったりするので、こっちからこれをしてください、とかは絶対言わないんですけども、チョコレートの作業の中で、テンパリングといって温度管理する工程があるので、これは結構難しい技術になってくるんで、やりたいなおかつ出来るっていう、出来るようになりたいっていう方しか、出来ない作業ではあります。元から全くそっちをやらずに、豆だけ剥きたいとか、箱だけ折りたいっていう方もいらっしゃるんで、そういう個々に合わせたお仕事をしてもらうようにしています。

長谷部 なんかその豆を剥くところから商品見ないので、お店の中で、一貫して工程が見えるっていうのは、昔の作業所で「それ何してんの？」って聞くと、「いいやよく知らない部品やねん」みたいなのと、大分違うように思うんですけども、一貫してやってることのメリットとかこだわりみたいなのは、ありますか？

太田 そうですね、ビントゥバーチョコレートの業界でいうとどこかで絶対機械を使っている所が多いので、それを福祉の力で完全に手作業でピュアなチョコレートを作る



っていうのと、そうですね、後は店内と厨房がガラス張りで、中が可視化できるようにしておりますので、利用者さんも実際お客さんの顔が見える・・・利用者さんのご家族とかも、働いてる姿が見えたり・・・そういうところですね。

長谷部 見られてることが逆に、全体を俯瞰して見れることにもつながっている訳ですね。

太田 そうですね、結構最近よく利用者さんがお客さんを連れてきてくれたりとか、ご友人をここで働いているっていうので、紹介して来てくれたりとか、弊社のA型でも、自分がどこで働いているっていうのをあまり言いたくない利用者さんも多いのですが、このB型の方たちは自分の仕事に誇りをもって例えば美容師さんに紹介して来てくださったり、そういう部分があるので、やはりその点で、やってる意味はあるなあというのと、やはりもっとチョコレートを売って、利用者さんの工賃も上げていかないとだめだなあと思っております。

長谷部 ありがとうございます。では、高嶋さんお待たせしました。着物をまずはばらばらにするのが一番多い作業ですね。



高嶋 そうですね。まずは、そこからですね。

長谷部 人によっては、ミシンを覚えて・・・

高嶋 段階踏んでますね。

長谷部 その人たちの向き合っている様子とか教えていただければと思うんですが。

高嶋 こういった着物一本の洋裁でやってい

るので、元々洋裁技術を持ってはる方から、全く初めての方まで幅広くいらっしやるんですけれども、技術を持ってはる方でも、まずは出来ない方と同じ仕事から始めてもらっています。その中で、利用者さんのスピードの出来具合を見て、ミシンっていうものに関しては、極力みなさんに向き合っているようにしています。中には、ミシンを触りたくないっていう方もいらっしやいますけど、私どもの事業所に来る方は、どういう思いで来はる方が多いかと言いますと、やっぱりこう生地が好き、着物が好き、色が好きおしゃれが好き、そういう方とかがよくいらっしやるんで、まずは生地を触ってもらって技術を習得してもらおうという、技術習得をしていただいて、時間はかかるんですけれど・・・今で、一番長い方で1年半ですかね、毎週1回の1時間から2時間、職員とマンツーマンでずーっとミシンの講座を続けていってます。だから、今日（バザーに）展示している商品は、ほとんどすべてが利用者さんが作製している商品です。僕が今着ているようなアロハシャツまでは、まだいけないんですけど、今年の年末から来年にかけては、ワンピースやパンツぐらいは作っていきけるようにやっていきたいな、と思って、そこに付いてきてくれるご利用さんも数名出てきたかなという形になってます。

長谷部 アロハシャツなんかだと襟の形状とか作るの、運針数も多いですしね。

高嶋 そうですね、やはり僕らやっても、一番曲線の部分が難しいので、商品も極力直線だけで作ってカッコよく見せられるものを基本的なコンセプトとして、やらしていただいています。



長谷部 聞きかじりで申し訳ないけど、和装って割と平面で平らなものが多い中で、洋装となると曲線とか立体裁断とかカーブを作らなきゃいけないのが多いと思うんですけど、そこが・・・

高嶋 難しいです。そこで、躓く人もやっぱりいてるんですけれども、そこはこれから、課題として出来る限りみなさんに技術を伝えていけたらなあとは、思っているところですね。

長谷部 ありがとうございます。途中で挫折しないように応援していかなあかところも、きっとあるんでしょうね。・・・さあ、森田さん一周お伺いしましたけれど。

森田 そうなんです、とはいえ今日出店されていますので、実際に手に取って見ていただいた方がより分かるのかなと思っております。では、私からの質問ですが、因みに儲かってますか？

儲かってますかあ

山下 （笑ながら）利用者の方が、まだ少ないですので、それでいうとまだまだかなという風に思っております。

森田 メンバーさんの給料を僕、聞くのはおかしいですかね。いいですか？言いたくなかったら言いませんでも、結構ですから。

山下 1日4時間ですけども、千円ですね利用者の方。

森田 千円。は、なるほど。ほな月で言うたら・・・二万ちょっとですかね・・・

山下 毎日来られたら・・・

森田 大きいですね。

山下 でも、やっぱり良い立地であったり営業時間も長いですし、カフェタイムからはアルコールも取り扱っています。



INOCCENTURE

少しずつですが、お客さまが増えているので、その店舗としての売上げを利用者の方にお支払い出来るように色々工夫をしております。

森田 いやぱっと見たら決して障がいの施設とは思えないような外観で、多分知らずに入られてる方も多しんやろなど・・・私も仕事終わった後に

一杯飲みに行かしていただいたんですけど、みなさん是非・・・みなと公園駅？えっ？ なんてしたっけ。

山下 地下鉄海岸線の三宮・花時計前駅です。

森田 是非、寄ってください。行った方がよく分かると思います。

長谷部 因みにもう一つ前提を押さえないんだけど、今の話でね、沢山お客さんが来てくれたら、利用者さんの工賃も増えるっていう理解で合ってる？

山下 そうです、はい。

森田 なるほど、そうですね・・・それを目指していく・・・ようけ来てもらうことによってメンバーさんの工賃に・・・

山下 それは、還元されるので、是非。

森田 そこですね、分かりました、是非行ってください。ありがとうございます。では、インコントラさん、どうですか給料。

太田 いや、儲かってないですね。（笑）そうですね、まだまだ全然儲かってないので、儲けるためには障がい者福祉もそうですけど、やっぱり、販路が・・・僕が客観的に見ると、狭いので・・・そこを上手く拡げていけるように、僕としては、やっている最中ですね。

森田 実際、給料どうですか？働かれる、実際通われるメンバーさんも、そこ気になれる方も多しんで。どんなもんなかなあと。

太田 マックス、フルで来ていただいた方で、平均3万8千円、月に。

森田 ウォーツ 凄いですね！

太田 いやあ、（凄い）って言われるんですけど、まだまだ上には上が・・・平均だと、3万2、3千円くらいですね。

森田 やはりそれも、みなさんに買っていただくことで、工賃のアップにつながるということなんですよ。

太田 そうですね。

森田 あ、なるほど。因みに私、阪急六甲北側にある店舗に行かしていただいたんです。CAFÉも併設されておりまして、ぱっと見て障がいの事業所と全然分からないんですよ。商品も手に取って買わしてもらったんですが、商品の後ろに、本来なら社会福祉法人何とかですって障がいの方が作られたのが分か

るような形で書いてあるんですが、そこも書いてなかったんですよ。全面的に障害者福祉を押し出していないような印象をもちました。・・・僕の感想を今、言いましたね。（笑）話とってしまいました。長谷部さん、大丈夫ですかね。

長谷部 裏に障がい者が頑張ってくつってます、って敢えて載せてないんじゃないかな、その辺りのこだわりの部分をもう少し聞かせていただけたらと、思うんです。

太田 そうですね、そこに関しては、正直僕自身が福祉ずっとやってきた訳じゃなかったんで、今思えばそういえば、確かに福祉の事業所さんと書いてるなって感じですね。

長谷部 元々そういうのを書くのが多いと知らずに始めはったから、そもそも入れてなかった感じでってことですね。

太田 確かに販路を拡大させるっていう部分もそうなんですけど、まあ福祉だから買ってあげようとか、応援するために買ってあげようとかは、ちょっと違うかなとは思っていますんで、単純に商品がいいと思って買っていただいて、のちのち調べたら、あそこそういうところなんだ、っていう流れに出来ればしたい。

長谷部 私若い頃に、長いこと障がいの作業所の時代の商品開発とかのお手伝いを担当する仕事をしてたんですけど、頑張ってるからとか、福祉の事業所やから買ってあげましょっていうのはそう何度も無理やでっていう風に言っていて、リピーター、固定客をつけるためには、その路線じゃ無理なんちゃうって長く言ってきたことを覚えているんですけど、それがそもそも最初っからあるよってことですね。

太田 そうですね。はい。

長谷部 ありがとうございます。

高嶋 儲かってるとは言えないですね。いや、今、太田さんの話聞かしていただいて、平均工賃すごいなと・・・思いました。僕たちでいうとまだまだそこまで行ってなくて、ご利用者さんで一番もらってはる方でも、2万8千円くらい、平均値で1万6千円くらいですね。まだそういうところのラインにいますね。今、みなさんの話を聞いていて、僕も思ったことがひとつあったんですけど、ご利用者さんもやっぱり工賃としてお給料稼げるようにならないといけないし、働いてるスタッフもやっぱりこの業界は稼げないじゃなしに、この業界でも、もっともお給料アップしていけるし、それなりの福祉サービスをちゃんと提供していくことによって、お給料稼げるようになるんだよってというのは、僕は若い子たちにも重々言うてますし、そういう意味では、ご利用者さんも働いている



スタッフも一緒に稼いでいくというのか、その姿勢に立ってやっていくのが、一番いいのかなという風に思っています。それは、僕たちが事業所を作った時の考え方のひとつで、オフィスビルのど真ん中に事業所を構えてるんですよ。まず、環境から整備していった意識の方を、ここに来て働いているんだよっていう意識を持ってもらうところから考えてやっていったので、来てくれてはる方は、もっともっと仕事をして新しいアイデア出して、商品売って作って稼ごうっていう意識をもって製作してってくれはる方も多いですし、僕たちスタッフもそうもっていけるように、ひとりひとりちゃんと向き合っ



森田 こないだね、Rinさんとこ行きましたら、作った商品今度フランスにね、持っていくいうて、日本の和物感で、いやすごいな思って、そんな販路があるというところが、B型の事業所で・・・ちょっと言うときます？是非。

高嶋 (笑) 10月の20日から二日間、フランスのジャパンまつりで、まあ日本のアニメとかがメインなんですけれども、日本の文化を発信するような場所に今回出店させていただこうと、初めてトライしてみようかなと思っております。太田さんが言わはったように、福祉事業所だから買ってもらえる商品やなしに、後から福祉事業所が作っててんや、と言われるぐらいやっぱりクオリティの高い物を作りつづけて、販売して、単価に関しても今までよりもっと付加価値を付けてね、売っていきたいなという風には思ってるので、どっちかと言ったら外へ外へ向けて、売っていきこうって志しています。

はい、またフランスの報告させていただきます。（拍手）※P30参照

長谷部 何かフランスって聞くだけで、お洒落な感じがしますね。

森田 そうなんです。事業所さんの作ったものがフランスで売られて、フランス人が着てるって、素晴らしいな、と僕も感銘を受けたんです。

長谷部 何かこういう利益を上げるためには、昔の感覚ですよ、1点もので高い値段つけて納得いただける物を作るか、低価格だけど手数が少なくて大量に作る事が出来て、例えばお土産みたいな形で箱物で売れていくみたいなものか、どちらかを目指す方がいいのかなみたいなことを思ってた時代があるんですけど、どちらかというとなんか1点ものですか？

高嶋 そうですね。ある程度のラインのものを作っていきたくて思っているんですけど、やっぱりひとつひとつの物の単価を上げるっていうか、手間がかかるんで、大量生産というのは出来ない部分がありますし、僕たち着物のリメイクものをしてるので、同じ柄の同じ物を作ることが出来ないんですよ。

長谷部 どれも違いますしね。

高嶋 そうなんです。どれも違う風になってくるので、やはりひとつひとつの単価を上げていくって思ってますね。



長谷部 なるほど、ありがとうございます。時間をみると、最期にもうひとつくらい質問をさせていただきますでしょうか。

森田 僕、今日何をしてもいいって聞いてきたんで、いっこだけネタ仕込んで来たんですけど、いいですか？（携帯電話を取り出し、某番組のテーマ音楽を流しながら）それぞれの事業所さんで、あなたにとって「Link tree」とは？で、答えていただきたいんです。

長谷部 山下さんにとってLink treeとは？♪～♪

山下 ♪～Link treeとは、みんながつながる場所です。

森田 みんながつながる場所！素敵ですね。ありがとうございます。（笑）

太田 ♪～株式会社インコントラとは、可能性を決めない。

森田 これもいいですね。では、高嶋さん、最後を締めてくれるはずでしょう。

高嶋 ♪～いやあ、勿論輝ける自分探しの場所ですよ、私どもは。（笑）

（※アトリエRinのキャッチコピーをシンポジウムタイトルに使用している）

（会場拍手）

森田 ありがとうございます。ちょっと無茶ぶりでしたね。やりたくて、これ思い出したんですよ。ごめんなさい。・・・長谷部さん、みなさんのお話聞かれてどうだったでしょうか。長谷部さんは、区社協で作業所っていった時代、長田や須磨、兵庫の作業所さん集めて、商品開発や売れるためにどんなことしたらいいかやってたと思うんですけど、そこでのこと踏まえて、今日聞いた感想など話していただけますか？

長谷部 10年ちょっと前に、その担当をしていて、その頃頻りに言っていたのは、商品を作るんだってことが、まずひとつですね。世の中の色んなものって、

値段を付けて、顧客側に販売する時にはじめて商品って言って、それ以外の呼び方では、物品で言ったり用品で言ったり色んな呼び方がある中で、顧客に選んでもらって、値段を付けれるって段階になったものに対して初めて商品っていう名前を付けるので、選んでいただける「商品」を作りたいよね、って話を社協や作業所のみなさんと、やっていたあの時代から、今こういう商品や活動が生まれて・・・あの当時ね、小さな声で言いますが、作業所なので、こんな商売したいとかこんな店やりたい、Link treeさんみたいに接客の方が仕事だっていうやり方すると、それ作業じゃないですよって某所から補助を受けられないっていうパターンがあったりしたんですよ。昔はね、その時代に、今のルールの中でどんな作業やったら作業所として認められて補助も出て、事業として成り立つかってことを一歩ずつ、ひとつずつ広げていこうということをあの十数年前にやっていて、商品を作ろうってことで、商品が一定いいものがあるんだよなって話になると、むしろどうラッピングをするか、どう箱に入れるか、そういうことをちゃんとしないと贈り物として使いにくいよねって、そういうことを必死になってやってる時代

が十年前にあって、むしろそういうことをいちいち言わなくても、当たり前な時代がやって来たんだなって今日聞いていて、何だかこの世界、やっぱ楽しいよなって思い出しました。ありがとうございました。

森田 色々とやられていたんですね。・・・長谷部さん、・・・私へ質問を・・・（笑）

長谷部 僕のセリフがありました。森田さん、中央区の自立支援協議会の事務局を担当されていて、その立場から活動の紹介をお願いします。



アトリエRin

森田

みなさん、自立支援協議会って聞かれてことありますでしょうか？・・・各区にあるんですが、制度上はしっかり記載されておるんです。簡単に言えば、みなさんが住み良い街を一緒に作っていきましょうっていうような協議会の場を作りなさいよ・・・っていうとこなんです。中央区におきましたら、約130事業所さんが加盟してくれてます。就労系の事業所であったり、相談支援事業所、あとは児童事業所でいえばと放デイ（※1）とか児発（※2）とか、それに関連する学校の先生とか、あとは直接ご自宅に支援に入ってくれるヘルパーさんとか訪問看護さん、あとは行政、社協さんが入ってくれておるんです。先ほど言いましたように、みなさんが住みやすい場をどう考えていくのか、例えば一人の方がこんなんで困ってます、というところをその団体に協議して話し合っ、みんなで解決する方法を考えるんです。こうでもないああでもない、私こんな出来ましたよって意見交換しながら、もしそれが叶えられず、難しい場合は、私たち事務局から神戸市にこんなならへんやろか、私たち事務局から提言をするというのが、自立支援協議会なんです。神戸市は9区ありまして、この事務局は障害者相談支援センターが担っております。各区にひとつまたは三つほどのセンターがありますので、もし、みなさんが参画してないようでしたら事務局へお問い合わせください。メンバーには、当事者であったりその家族会であったりとか、本人らの話を聞く場でもありますので、ご興味がありましたら、是非参加していただければと思います。



※1 放デイ 放課後等デイサービス事業所 ※2 児発 指定児童発達支援

長谷部 特に中央区は、色んなところが結構参加してますよね。

森田 毎月、相談支援センターの強化員の会議があるんですが、そこで活動内容を共有したりしてるんです。そこで各区の事例とかも話し合うなかなか面白い会議がありますんで、それぞれの区でご参加いただけたらと思っています。はい、ありがとうございました。

長谷部 (同時に発声)

森田 (笑)

長谷部 (台本見ながら) 次は僕ですよ。

森田 なるほどね、まあ大丈夫です、いうてもね時間がもう14時になりました。今日ですね、様々な活動を報告していただきました。障がいのある方ですね、ソーシャルインクルージョンいうんですかね、社会の中で、みんなで働いたり遊んだり、一緒に活躍できる場所の選択肢が広がっています。ほんとですよ、これだけ広がるということは、事業所さんにとっては選ばれる事業所でないと、なかなか運営が厳しいのかなと・・・そのためには、どんなことが出来るんやろって本当に考えられてると、私も新緑福祉会として、持って帰りたいなと・・・刺激を受けたなと思っております。



Link tree

長谷部 仕事として選ばれるみたいな要素と居場所として選ばれるみたいな要素と二つあって、どっちかに偏ってもいいと思うし、両方すごく出来るでもいいんだと思ってるんです。その特性がはっきり分かる方が、選ぶ方は選びやすいかな、と、そんな風に

思っているんで、是非色々な選択肢が、神戸市内更に広がっていくと嬉しいなと思います。

森田 はい、ほんとですよ。・・・はい、時間になりました。今日は、長谷部さんと私、この司会どうだったでしょうか？

(会場大拍手) ありがとうございます。パネリストのみなさんもほんとにありがとうございました。大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

長谷部 お約束の時間にはなってますので、シンポジウムこれで閉じたいと思いますが、この後も体育館の中の展示ブースとか外の色々なバザーの商品とか見ていただいて、お楽しみいただけたらと思っています。楽しんで残りの時間、お過ごしください。今日は、どうもありがとうございました。



CAST <シンポジスト> symposiast



Link tree (みかり会) ソーシャルワーカー
山下美春 Miharu Yamashita

地域福祉分野での仕事の経験を活かして、社会福祉法人でコミュニティソーシャルワークに取り組んでいきたいと思い入職。今日のような社会福祉課題に対応し、法人のソーシャルワーク機能の底上げを目指すホープさん。



インコントラ事業マネージャー
太田純貴 Jyunki Ota

現社長に声をかけられた事がきっかけで現職へ。以前は異なる業種だったが、自分の持つスキルを発揮できる点、障害者福祉の今後の可能性をもっと広げていきたいと考え転職した熱血漢。



アトリエRin TAKASHIMA代表取締役

母親と共同で小さな会社を経営。A型の経営管理の経験から初めての事業所を立ち上げ、本業プラスB型で挑戦中。やるべきことが決まっており、ブレない強みを活かして前進あるのみの爽やか社長。

Link tree (みかり会)



CAFÉ モーニング、ランチ、夕方からちょい飲みも出来る、好立地のバリアフリー仕様の木調店舗。アルコールは14:00から。

M 卵かけごはん、トーストセットなど 500円

L 豚汁・おにぎり定食 Link box 580~1,400円

D 角煮定食(各種) 980円 生ビール 380円 地酒500円

月~土 8:00~20:00 地下鉄三宮・花時計駅改札階

<https://linktree.mikarikai.jp/>

INNOCENTURE



meets chocolate 香りと味わいを最大限に引き出したクラフトチョコレート。白を基調とした洗練された店舗。CAFÉ併設。

板チョコ(カカオ豆の産地ごと) 1,100円~1,600円

定休日なし 10:30~18:00 阪急六甲駅北東へ徒歩5分

<https://innocenture.jp/>

アトリエRin



着物リサイクル 不要になった着物や帯を解き、洗い、アイロンがけし、反物に再生。デザインされた衣服や小物、生活雑貨へリメイクし、商品化。百貨店などのイベントに出店中。

定休日 日、祝日、土曜 10:00~16:00 ポートライナー貿易

センター駅徒歩1分

<https://atelier-rin.takashima-k.co.jp/>

CAST



<司会> NIWAKA-ZU

長谷部 治 **OSAMU HASEBE**

神戸市社会福祉協議会地域支援担当課長

阪神・淡路大震災時に学生ボランティアで来神。以来、定住。泣く子も黙る災害ボラセンと地域再生のプロフェッショナル。普段は、料理、燻製、釣り、DIY を愛する趣味の人。ノンアルコールな二男の父。

森田 裕一 **YUICHI MORITA**

たちばな障害者相談支援センター相談員

(新緑福祉会)



転職を機に、福祉業界へ。生活介護事業所に勤務の後、現職。中央区自立支援協議会の事務局も務める。引き笑いの術に長け、常に周りを和ませる。趣味は麻雀。全国障害者スポーツ大会の神戸市選手団ボウリングチームの監督も務めた。

☆≡ 名司会森田さん、本番数日前の無茶ぶりに応じて下さった長谷部さん、禰宜田地域支援部長(神戸市社協)に深謝します。

Link tree



INNOCENTURE



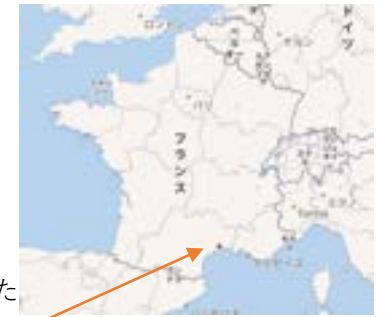
アトリエRin



【後日談】



フランスで勝負！



シンポジウムの中、アトリエRinの高嶋社長から「フランスの**ジャパนม祭り**に出店する」というお話があり、12月8日にその時の様子をお伺いしてきました

記

1. 日程 2023年10月20日・21日
2. 場所 モンペリエ市(展示会場) 約100店舗
3. 出店料 8万円×2日 (6m×6mのブース)
4. 商品 着物・帯をリメイクした、生活雑貨・小物・生地・人形など
5. 販売実績 約60万円
6. フェアのようす等

- (1)親日の方が多いフランスで本物を買うという意気込みで出店。着物類も現地に住む中国系の人たちが、日本っぽいものを買っていた。日本からの出店は、アトリエRinだけであった。
- (2)想像以上に日本の物は、評価されている。商品もひとつひとつしっかり見て選んでいる。自社の製品もきちんと評価され、自信になった。
- (3)利用者さんたちも、自分たちの商品がフランスで売れたと、モチベーションをもってやってくれている。 【高嶋社長 談】

<事務局>海外での販売に手応えを感じ、ブレない手法で、本物の商品を製作し、出来ることから、また泥臭いところから始めると語る高嶋社長の眼は、輝きながら未来を見据えておられました。

【実録】

「第34回こうべ福祉・健康フェア」の新たな取り組み

3.

森の1 DAY CAFÉ

一日限り～障がい者のはたらくお店

Coffee・ケーキ・ミニメロンパンアイス・ソフトドリンク

- 協力：①森の美味しいパン屋さん（垂水区）
②みらいおもいけ園（長田区）
③オリーブの丘（西区）
④北区聴力言語障害者福祉協会



4 団体が、タッグを組んで同じテントの下、1日限りのブースでお店を切り盛りしました。販売窓口を④北区聴協のみなさんが手話を交えて担当。注文はメニューへのサイン（指差し）が多くみられました。現金を受け取り、注文票に記入し、それぞれの事業所に手渡し、それぞれの窓口で商品をお客さんに提供しました。大きな混乱もなく、円滑に運営されていました。

（総売上額 約10万円）

【協力団体の声】

- ・初めての企画（ワンデイカフェ）でしたが、予想を大きく上回る来店者で大変賑わい良かったと思います。
- ・受付の場所がもっとわかりやすいと、よりたくさんの方が来てくれるのではと思いました。



- ・オペレーション的には、改善点あると思いますが、皆さん助け合いながら行えたと思います。今後も新しい企画等、参加させていただければと思います。この度はありがとうございました。
- ・場所が良かった。並ぶ時に隣の店の迷惑にならない。通訳者無しでコミュニケーション出来る工夫が大変良かった。お客様も自分でコミュニケーションしてみたいという方が多い様に思った。
- ・メニュー表が見やすかった。
- ・総合案内所と間違われる事が多かった。
- ・コーヒーが、売切れ→再開を繰り返した時の対応に工夫がいたると思った。
(テープの貼り剥がしでも良いが、案内ポスターは紙なので剥がしにくい)
- ・全体的に大変良い企画で有意義な経験でした。ありがとうございました。
- ・お客様が直接支払いにこられ迷われていた。完売した商品を受付に伝えたが、しっかりと伝わっておらず、お客様を待たせてしまった。支払いは別々の方が良いと思った。事前にもう少し実践的な打ち合わせが出来たらと思った。他の事業所の方と話しができて嬉しかった。
- ・1DAY CAFÉ が少し中に入る形になるので、お客様には少しわかりにくかったが、手伝ってくれた利用者さんが、とても喜んでいた。



【事務局】 国立市の聴覚障がい者

が主役のスターボックスの店舗をヒントに、開設。準備期間が短く、ご迷惑をかけましたが、新しい試みを、みなさんの工夫で乗り越えられました。感謝します。



4. 【あしがきそしてふり返り】

～働くってことは生きるっていうこと～

「福祉・健康フェア」の類の催しは、平成年間に隆盛を極め、神戸市内各区のイベントとして開催されていた。現在は、しあわせの村、西区、そして垂水区が継続中である。令和5年度のしあわせの村における「第34回福祉・健康フェア」の企画段階から、何か新たな取組みをということで、ここに記録された①プチシンポジウム「活躍できる自分探し！」と②1 DAY CAFÉの二本立てで、時間のない中、ある意味強引に実施した。①では、福祉の枠にとらわれない製品、サービス最優先！真っ向勝負の事業所の、リーダーの方々の話を聴くことが出来た。利用者の方々の適性や可能性を知ってしまった支援者の皆さんの前向きな心がそこにありました。「組織は人」という言葉は、使い古された気もしますが、今回、シンポジウムにご協力いただいた緒団体には、凄い人たちがおられました。

そもそも、今回のシンポジウムのテーマは、福祉フェアの参考にと、各地のイベントを訪ね、瀬戸内海のある島でステージに立つ地元のシンガーの歌に心惹かれたことに始まりました。「働くってことは生きるっていうことだ」と、歌っていました。事業所で働いている障がいがある方々は、どんな思いで働いているのか、またその支援者のみなさんは、最先端でどこを見据えているのか、と、ふと思いついたのです。

最後になりましたが、1 DAY CAFÉの運営にご協力いただきましたみなさまも、チームワークよくブースを盛り上げてくださいました。ご多忙中、趣旨ご賛同くださり、当日、ご出演いただいたすべてのみなさまに感謝申し上げます。ありがとうございました

「第34回 こうべ福祉・健康フェア2023

まじめプチシンポジウム

活躍できる自分探し！～最先端事業所からの報告～」

令和6年3月1日 発行

発行元：公益財団法人こうべ市民福祉振興協会

〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1番1号

Tel078-743-8092 E-mail f-fair@shiawasenomura.org

第34回 こうべ福祉・健康フェア 事務局